

# 「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果と今後の取り組みについて

越前町立織田小学校

## <全国学力・学習状況調査について>

本調査は、文部科学省が、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点」から、毎年（R2年度は新型コロナ感染症の影響のため中止）行っている調査です。学校の教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることなどを目的としています。

今年度は、「国語」「算数」「理科」の3教科および学習状況の調査が行われました。

本校の結果は、3教科とも、全国平均より上回っていました。

### 【教科について】（○…よい、▲…課題あり、※…考察）

#### （1）国語について

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができる。
- 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
- ▲目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
- ▲目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。
- ※目的に応じて、必要な文章や図表を結び付けたり、条件に合うように自分の考えを書き表したりすることを苦手としている。

#### （2）算数について

- 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。
- 異分母の分数の加法の計算をすることができる。
- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる。
- ▲分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できる。
- ▲数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。
- ※式の意味を考えたり、単位分数の考え方などについて言葉や数、式を用いて説明したりすることを苦手としている。

#### （3）理科について

- 花のつくりや受粉についての知識が身に付いている。
- 土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができる。
- ▲身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。
- ▲種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができる。
- ※実験の方法が適切であったかを検討したり、実験や観察の結果から自分の考えを表現したりすることを苦手としている。

## 【学習や生活に関するアンケート調査から】(○…良いもの、▲…課題あり)

- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」
- 「今まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」
- ▲「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」
- ▲「友達関係に満足していますか。」

## 【課題をふまえての取組】

### (1) 対話を生み出す学びの場の設定

児童一人一人が、直面した課題に対し真剣に考え、その解決に向けて、さまざまな学びの場の設定により対話を通してつながり合い、考えを深め、互いに高め合っていくことを目指す。達成に向けた具体的な手立てを以下に挙げる。

- ◆ねらいに迫る適切な課題設定を行う。
- ◆知的好奇心をゆさぶる課題提示の仕方を工夫する。
  - ・生活や体験と関連付けた課題設定
  - ・「考えたい」「取り組みたい」という意欲が高まる提示の工夫
  - ・「えっ?」「本当に?」と疑問をもたせるような課題の工夫
- ◆自分でしっかりと考える時間を確保する。
- ◆考える視点を明確に示す。
- ◆考えをもてない児童への手立てを準備する。
- ◆自分の考えを表現する活動を取り入れる。  
(キーワード・言葉・図・絵・式・表・グラフなど教科の特質を生かして)
- ◆活動の目的に応じて有効な学習形態(ペア・グループ・一斉)を活用する。
- ◆思考を深める問い合わせや思考をゆさぶるしきけを工夫する。

### (2) 自己存在感を実感できる授業作り

生徒指導の4つの視点「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」を意識し、学習内容に合わせ次のような過程を取り入れ実践する。

- 課題に対する解決方法を自分で決める。
- 児童の考えを発表したり提示したりして、一人一人の活躍の場を保障する。
- 安心して自分の意見を伝えられるような雰囲気づくりを工夫する。
- 自己評価や他者からの称賛によって、充実感や自己有用感を高めていく。

### (3) 家庭との連携

- 学校と家庭の情報交換を密にし、いつでも話し合いや相談ができるような体制を作り、協力して子どもを育んでいける関係づくりに努める。